

2020. 10. 3 sat
at Tokyo Metropolitan Theatre
Concert Hall



Tokyo Kosei Wind Orchestra

Subscription
Concert

150th

Ryusuke Numajiri
conductor

Program | プログラム

吹奏楽のための「クロス・バイ マーチ」 [約4分]

三善 晃
《CROSS-BY MARCH》for Wind-Brass Ensemble / Akira Miyoshi

われ死者の復活を待ち望む [約30分]

O.メシアン
Et Exspecto Resurrectionem Mortuorum / Olivier Messiaen

- I : 深い淵の底から、私はあなたに呼びかけます。主よ、私の声を聞いてください！
Des profondeurs de l'abîme, je crie vers toi, Seigneur: Seigneur, écoute ma voix!
- II : 復活されたキリストに、もはや死はありません。死はこれ以上、彼を支配しません。
Le Christ, ressuscité des morts, ne meurt plus; la mort n'a plus sur lui d'empire.
- III : 死者が、神の御子の声を聞く時が来ています……
III. L'heure vient où les morts entendront la voix du Fils de Dieu ...
- IV : 彼らは、星の歓喜の歌と、神の御子らの歌声による饗宴の中、新しい名を得て、輝かしく復活するでしょう。
Ils ressusciteront, glorieux, avec un nom nouveau-dans le concert joyeux des étoiles et les acclamations des fils du ciel.
- V : そして、大歓声が聴こえてきて……
Et j'entendis la voix d'une foule immense ...

休憩 [20分] Intermission

カルメン・ラプソディ

～サクソフォン クアルテットと吹奏楽のための～ (吹奏楽版初演) [約20分]

長生 淳
Carmen Rhapsody for Saxophone Quartet and Wind Orchestra [World premiere for Wind Orchestra] / Jun Nagao



東京佼成ウインドオーケストラ サクソフォン クアルテット

Soprano Saxophone : 田中靖人
Alto Saxophone : 林田祐和
Tenor Saxophone : 松井宏幸
Baritone Saxophone : 栃尾克樹

三つのジャポニスム [約20分]

真島俊夫
Les Trois Notes du Japon / Toshio Mashima

- I. 鶴が舞う La danse des grues
II. 雪の川 La rivière enneigée
III. 祭り La fête du feu

注意

- 本コンサートは、会場の観客の皆様を撮影する場合がありますこと、および収録された映像がインターネット、DVDなど各種媒体で公開・販売されることを予めご了承下さい。
- ホール内での飲食、許可のないビデオ・写真撮影、および携帯電話・スマートフォンでの撮影はご遠慮ください。
- 携帯電話・時計のアラームなど音の出る電子機器は電源をお切りください。
- 演奏中のプログラムをめくる音、お客様同士での会話など音を発する行為は他のお客様のご迷惑となることがありますのでご配慮下さい。

東京佼成ウインドオーケストラでは、政府・各自治体およびホールの方針に基づき、最大限の感染予防と拡大防止のための対策を実施した上で、本公演を開催いたします。詳細につきましては、当団オフィシャルサイト掲載の《【重要】感染予防対策についての取り組みとお願い》をご覧ください。

本公演に関するアンケートへご協力ください。



Profile | 指揮者プロフィール

沼尻竜典

Ryusuke Numajiri
conductor



びわ湖ホール芸術監督、トウキョウ・ミタカ・フィルハーモニア音楽監督。2022年4月より神奈川フィルハーモニー管弦楽団音楽監督に就任。ベルリン留学中の1990年、ブザンソン国際指揮者コンクールで優勝。以来、ロンドン響、モントリオール響、ベルリン・ドイツ響、ベルリン・コンツェルトハウス管、フランス放送フィル、ミラノ・ヴェルディ響、シドニー響、チャイナ・フィル等世界各国のオーケストラに客演を重ねる。国内ではNHK交響楽団を指揮してのデビュー以来、新星日本響、東京フィル、名古屋フィル、日本フィル、群馬響、日本センチュリー響のポストを歴任。2011年夏にはサイトウ・キネン・オーケストラにデビュー、バルトク『中国の不思議な役人』で成功を収めた。ドイツではリュウベック歌劇場音楽総監督を務め、オペラ公演、劇場専属のリュウベック・フィルとのコンサートの双方において数々の名演を残した。ケルン歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン・コーミッシェ・オーパー、バーゼル歌劇場、シドニー歌劇場等へも客演、芸術監督を務めるびわ湖ホールでは、2017年より4年間かけてミハエル・ハンベの新演出による《びわ湖リング》を上演、空前の成功を収めた。14年にはオペラ『竹取物語』を作曲・世界初演、国内外で再演されている。CD録音も多く、数万枚を販売するベストセラーとなった東京都響との「日本管弦楽名曲集」、芸術選奨新人賞を受けた「武満徹・ARC」をはじめとする現代音楽のほか、日本センチュリー響とのメンデルスゾーン交響曲全集も名盤として名高い。トウキョウ・ミタカ・フィルハーモニア(旧トウキョウ・モーツァルトプレーヤーズ)とはベートーヴェンの交響曲全集をリリース後、定期的にレコーディングを重ねている。17年紫綬褒章受章。

Program Notes | 曲目解説 — 富樫鉄火(音楽ライター)

三善 晃

吹奏楽のための「クロス・バイ マーチ」

1992年度全日本吹奏楽コンクールの課題曲C(連盟委嘱作品)。

三善は、この4年前、1988年度に、初めてのコンクール課題曲《吹奏楽のための「深層の祭」》を発表しており、これが2曲目の課題曲であった。《深層の祭》は、吹奏楽オリジナル曲の歴史を変えたとまでいわれる名曲、かつ難曲であったが、今回も、一筋縄ではいかない不思議な魅力にあふれる曲となった。

そもそも曲名に「マーチ」と付いていながら、実用的な意味での「行進」とは無縁である。作曲家自身は、「クロス・バイの意味は行き交うということで、みんなが自由に歩みながら心を通わせ合っている風景を描こうとした」ものであり、「それが2つのテーマの交錯や4拍子の中の3拍子といった作曲上の扱いにも表れている」と述べている。

三善晃(1933~2013)は、東京大学仏文科在学中にパリ高等音楽院に留学~中退した異色の作曲家。大量の合唱曲を中心に、管弦楽、室内楽など、多くのジャンルに名曲を残した。桐朋学園大学長、東京文化会館長などもつとめた。

なお、本日の指揮者・沼尻竜典は作曲家でもあるが、師は三善晃である。いわば本日は、時を超えた師弟共演ということになる。

O.メシアン

われ死者の復活を待ち望む

『王道』や『人間の条件』などで知られるフランスの作家、アンドレ・マルロー(1901~76)は、戦時中、自由フランス軍の司令官としてナチス・ドイツと闘った。フランス北東部、ストラスブールの防衛戦を闘い抜いた功績では、勲章を授与されている。終戦後は、同軍のシャルル・ド・ゴール将軍と気が通じる仲となり、のちのド・ゴール政権下で、情報大臣や文化大臣などを歴任した。戦後のフランスの文化政策は、かなりの部分が、このマルローによるものだったのだ。

そのマルローが、第2次世界大戦の終戦から20年の節目を迎える1965年の初演を目指してメシアンに委嘱したのが、本曲。2回の世界大戦における死者を追悼する、一種の鎮魂曲で、マルローなりの、戦争に対するけじめでもあった。

作曲家オリヴィエ・メシアン(1908~92)は、音楽家であると同時に、神学者、鳥類学者でもあった。彼の作品を聴くには、そのことを理解して接する必要がある。

まず、本曲でメシアンは、「ニカイア・コンスタンティノポリス信条」(西暦381年に最終決定した、カトリックの基本信条)の最終部分にある、『新約聖書/コリント人への手紙』の詞章「我、望む、死者の復活、並びに来世の生命を」(日本正教会訳)を全体の源泉イメージとした。

使用される楽器は、管楽器群(サクソフォン群がない点を除けば、現代の吹奏楽編成に近い)と金属打楽器(カウベル、チューブラー・ベルズ、ゴング、銅鑼)のみで、弦楽器や膜質・鍵盤打楽器は使用されない。

ここからして、メシアンは、力強い音色の楽器で、教会での静謐な祈りを再現しようとしたことが察せられる。

初演は1965年に、パリで、セルジュ・ボドや、ピエール・ブレーズらの指揮により、数日にわたっておこなわれた(初演とリハーサルの模様は、記録映画に収録されている)。そのうち1回には、かのド・ゴール大統領も臨席している。なお、初演の打楽器は、かつてマルローがナチス・ドイツと闘った地の「ストラスブール・パーカッション・アンサンブル」がつとめた。

全体は5曲構成で、各曲に聖書からの引用が冠せられている(曲名は、既出の複数の訳を参考に訳した)。

I : 深い淵の底から、私はあなたに呼びかけます。主よ、私の声を聞いてください!

『旧約聖書/詩篇130篇』の冒頭部、もっとも有名な詞章。バスーンの重い響きではじまる。「深い淵の底」とは、真つ暗な海底のイメージでもあり、そこから多くの死者が、天上に向かって呼びかけている様子が描かれる。

II : 復活されたキリストに、もはや死はありません。死はこれ以上、彼を支配しません。

『新約聖書/ローマ人への手紙』より。激しい和音と、木管楽器のソロが交互に登場し、復活の意義を奏でる。

III : 死者が、神の御子の声を聞く時が来ています……

『新約聖書/ヨハネ福音書』より。冒頭、木管が鳥の鳴き声を吹奏する。これはアマゾンに生息する、正式名「ウイラブルー・ヴェルダデイロ」の声。そのさえずりは、明らかに音階感覚のある「メロディ」で、それゆえ「森の音楽家」などと呼ばれている。メシアンは、この鳥の声を「神の御子の声」にたとえて、見事なまでにウイラブルーの声を再現している。

IV : 彼らは、星の歓喜の歌と、神の御子らの歌声による饗宴の中、新しい名を得て、輝かしく復活するでしょう。

『新約聖書/コリント人への手紙』などより。次に登場する鳥は「ヒメコウテンシ」(姪告天子)。ヒバリの仲間で、主にヨーロッパに生息するが、日本海側の島嶼部でも確認される旅鳥である。そもそもヒバリ(コウテンシ=告天子)は、王の即位を鳴き声で天に告げるのが役目だった(小型種なので「姪」が付いた)。メシアンは、その鳴き声で「歌声の饗宴」を再現し、後半ではグレゴリオ聖歌の旋律も加えながら、復活への期待を表現する。

V : そして、大歓声が聴こえてきて……

『新約聖書/ヨハネ黙示録』より。打楽器群が刻むリズムとともに、管楽器群が強烈なロングトーンで、復活(への期待)を描く。まさに大戦における死者の魂が、一斉によみがえろうとしているかのように、数多い宗教曲のなかでも、群れを抜く激しい響きが展開する。

本曲は、ヨーロッパではよく演奏されているが、「管弦楽団」による演奏がほとんどである。「吹奏楽団」の演奏は少ない。それだけに、本日は、たいへん貴重な機会である。マルローとメシアンの戦争犠牲者への思いに、しばし耳を傾けたい。

真島俊夫

三つのジャポニスム

東京佼成ウインドオーケストラは、いままでに多くの委嘱作品を初演してきたが、やはり、本曲がずば抜けた人気度を獲得している。

本曲は、2001年、東京佼成ウインドオーケストラの常任指揮者ダグラス・ポストック(当時)の委嘱により作曲、初演された。すぐにたいへんな話題となり、一夜にして真島俊夫の代表作となったばかりか、ヨーロッパでも演奏されて大反響となった。支部大会以上の吹奏楽コンクールだけでも、200回以上の演奏回数を記録、今やもともと人気のある国産吹奏楽オリジナル曲である。

「ジャポニスム」とはフランス語で、「日本趣味」(に溺れる)といったニュアンスがある。主として19世紀後半のヨーロッパを席卷したブームだ。ゴッホやマネが模写した浮世絵、葛飾北斎からインスピレーションを得たドビュッシーの交響詩《海》、日本を舞台にしたブッチェーニ《蝶々夫人》、サリヴァン《ミカド》、マスカンニ《イリス》などの歌劇……要するに「西洋人が見た日本」なのだが、日本人・真島俊夫は、視座を「洋」に置いて、そこから日本を見つめなおした。この手法は、ひとつ間違えると自虐パロディに終わりがねないが、真島は、そんな危険を乗り切って、実にユニークですてきな音楽を生み出した。まさに奇跡的な傑作といえよう。全体は3楽章構成。

I：〈鶴が舞う〉

北海道・釧路湿原に生息する丹頂鶴の、求愛の舞(ダンス)。打楽器(団扇や扇子など)が「鶴の羽音」を表現する。作曲者は「鰻の蒲焼きを焼く時の要領」と説明している。ピッコロ、オーボエ、ソプラノ・サクソフォンなどのソロも活躍する。

II：〈雪の川〉

しんしんと雪が降る渓谷の“無音状態”を描く。管打楽器で演奏されていることを忘れそうになる。真島の故郷、山形県鶴岡市の雪景色の光景が源泉イメージかもしれない。ここでは「竹鳴子」が登場する。竹をたくさん並べてヒモでぶら下げ、ウインド・チャイムの要領でカラカラと鳴らす。イングリッシュ・ホーンなどに美しいソロがある。

III：〈祭り〉

青森の「ねぶた」や、夏の入道雲などがモチーフとなり、にぎやかに展開する。ここでは「桶太鼓」を、竹の棒をバチにして叩く。作曲者は「剣道の竹刀を分解し、適当な長さに切った二本をバチにし、先ではなく中間部分でバシッと叩く」と説明している。その他、しめ太鼓、あたり鉦、小鼓、和太鼓、手平鉦など、和打楽器のオンパレードで、ティンパニも大活躍、熱狂のクライマックスを形成する。

真島俊夫(1949~2016)は、神奈川大学吹奏楽部出身。ヤマハ・バンド・ディレクターズ・コースで作編曲を学び、1985年、《波の見える風景》がコンクール課題曲に公募入選し、注目を浴びた。以後、多くのオリジナル曲や編曲を発表、課題曲も計3回書いている。本曲については「初演してくれるTKWOのメンバー、ひとりひとりを思い浮かべながら書きました」と語っていた。

なお、真島は、後年、本曲の管弦楽版のほか、全曲を単一楽章(約7分半)に再編集した「コンポーザーズ・エディション」なども発表している。

カルメン・ラブソディ

～サクソフォン クワルテットと吹奏楽のための～
(吹奏楽版初演)

作曲：長生 淳

『カルメン』の「聴きどころ」満載感は並大抵のものではありません。他に類を見ないといっても過言ではない。ですので……この『カルメン・ラブソディ』はもともとはトルヴェール・クワルテットのための編曲なのですが、その折の選択は、入れた曲が多すぎて「どの曲を使うか」ではなく「どの曲をあきらめるか」という苦渋にまみれたものでした。つながりもさることながら、時間枠の中におさめきれないのです。だったら『カルメン』以外を使うなんてもってのほか、なのになぜか他の楽曲まで入れてしまったのは、なんせおよそ四半世紀も前のこと、若気の至りなんて言い方もできそうですが、今回の東京佼成ウインドオーケストラ版も、出来上がってみると引用の部分がが増えていたりするのですね。三つ子の魂なんとやら?いえいえ、結果としてはそうになっていますし、確かに今だに面白がっているところもなきにしもあらず、なのですが、今回の主眼はそこではありません。

『カルメン』そのものの魅力は魅力として、ソリとオケのやりとりを聴かせたい—ソリの存在感は示しつつ、オケの魅力も存分に発揮させ、両者の拮抗を「聴きどころ」としたい、というのが出発点になりました。それゆえ、構成はもとの編曲を大筋で踏まえつつ、ソリのパートも一部書き換え、あらたな要素や部分を加えるといった手の入れ方をしているのです(そのひとつの手立てが引用)。ですから、すでにトルヴェール版に親しまれている方にも、きっと新鮮に楽しんでいただけることでしょう。もちろん、ソリとオケの「協奏」は、なにせこのメンバーなのですから楽しくないわけがない、編曲のねらいがどうか考えるまでもなく、並大抵ではない「聴きどころ」であること、請け合いです。

ちなみに、構成で一番大きな変化は冒頭でしょう。この追加は、ソリ・オケ両方にとって、より鮮烈なはじめ方を模索した結果なのですが……『〇〇のカルメン』という意味付け(?)も、我ながら昭和だなぁと思うものの、わるくないように思っていたりします。

作曲家プロフィール

長生 淳 Jun Nagao, Composer

1964年3月1日茨城県生まれ。東京藝術大学作曲科卒業、同大学院修士課程修了。作曲を永富正之・野田暉行両氏に師事。2000年度武満徹作曲賞、(財)日本交響楽振興財団第24回作曲賞、第16回日本管打・吹奏楽アカデミー賞(作編曲部門)受賞。全日本吹奏楽連盟作曲コンクール第1位入賞。第4回クードヴァン国際吹奏楽作曲コンクール第2位受賞。21世紀の吹奏楽“響宴”会員。おもな作品には《交響曲》《レミニサンス》《英雄の時代》《翠風の光》《楓葉の舞》《久堅の幹》《紺碧の波濤》《Prime-Climb-Drive》《A CE QU'IL Y AVAIT》など。



Profile | 楽団プロフィール



©Atsushi Yokota

東京佼成ウインドオーケストラ Tokyo Kosei Wind Orchestra

1960年(昭和35年)5月、立正佼成会附属の「佼成吹奏楽団」として発足、その後1973年に「東京佼成ウインドオーケストラ」へ改称した日本が世界に誇るプロ吹奏楽団。
吹奏楽オリジナル作品、クラシック編曲作品やポップス、ポピュラーまで幅広いレパートリーの演奏を通し高い音楽芸術性を創出し、多くの人々が楽しめる管楽合奏を展開、各地のコンサートで好評を博している。また多くのレコーディング、テレビ・ラジオに出演し、吹奏楽文化の向上・普及・発展に尽力している。
2020年に楽団創立60周年を迎え、同年1月より大井剛史が正指揮者、トーマス・ザンデルリンクが特別客演指揮者、飯森範親が首席客演指揮者、藤野浩一がポップス・ディレクターに就任。

Members | 演奏者名簿

桂冠指揮者 …… フレデリック・フェネル
正指揮者 …… 大井剛史
特別客演指揮者 …… トーマス・ザンデルリンク
首席客演指揮者 …… 飯森範親
ポップス・ディレクター …… 藤野浩一

指揮 …… 沼尻竜典
演奏 …… 東京佼成ウインドオーケストラ

Piccolos …… 丸田悠太(Flute)*、伊藤愛	Trumpets …… 奥山泰三、ガルシア安藤真美子、 本間千也*、河原史弥
Flutes …… 前田綾子、飯野尚倫、白戸美帆	Horns …… 上原宏、木村淳、堀風翔*、 小助川大河、小田原瑞輝、 山田一輝
Oboes …… 宮村和宏、石井智章、是澤悠	Tenor Trombones …… 今村岳志*、石村源海、越智大輔
English Horn …… 桜田昌子	Bass Trombone …… 佐藤敬一朗
Bassoons …… 福井弘康、神山純、栗林愛理	Euphoniums …… 岩黒綾乃、齋藤充
Contra Bassoon …… 大内洋介	Tubas …… 近藤陽一、佐藤和彦
Clarinet in E♭ …… 福井萌	Contrabass …… 前田芳彰
Clarinet in B♭ …… 小倉清澄、大浦綾子、林裕子、 太田友香*、亀居優斗、勝山大輔、 北岡羽衣、佐藤拓馬、徳武敦	Timpani …… 坂本雄希*
Alto Clarinet …… 瀧本千晶	Percussion …… 秋田孝訓、渡辺壮、和田光世、 市東章代、藤井里佳、山口大輔
Bass Clarinet …… 有馬理絵*	Harp …… 神谷朝子
Contra Bass Clarinet …… 原浩介(Clarinet in B♭)	
Alto Saxophones …… 田中靖人(Soprano Saxophone)、 林田祐和	
Tenor Saxophone …… 松井宏幸	
Baritone Saxophone …… 栃尾克樹	

(※ = 演奏委員)

名誉楽団長 …… 庭野光祥	マネージャー …… 遠藤敏、井小菘浩之
楽団長 …… 林總太郎	ステージマネージャー …… 今井慎吾、勝川本久
佼成文化協会長 …… 菅野泰正	ライブラリアン …… 羽田紀子
コンサートマスター …… 田中靖人	制作 …… 久保慶恵
副コンサートマスター …… 宮村和宏	パーソナルマネージャー …… 富田真里那
インスペクター …… 堀風翔	総務 …… 牧野正純、佐原由起、勝川本久
企画委員 …… 上原宏	広報 …… 遠藤敏、荻沼美帆、今村俊博
	チケットサービス …… 荻沼美帆
	庶務 …… 出塚和良、小野寺龍一、石川清
	経理 …… 水本孝枝

Tenor Trombone

石村 源海

[2020年4月1日付け入団]



皆様こんにちは。今年四月より、東京佼成ウインドオーケストラのテナートロンボーン奏者となりました、石村 源海と申します。どうぞよろしく願いいたします。小中高校時代に吹奏楽三昧な生活を送っていた私ですが、その頃から東京佼成ウインドオーケストラのサウンドに憧れを抱いておりました。そして今その楽団員として舞台上がれることを大変光栄に思っています。まだまだコロナウイルスによる厳しい状況は続いておりますが、本日の定期演奏会にお越しくくださったお客様には、生演奏での吹奏楽の素晴らしさを感じていただけたら幸いです。

Alto Clarinet 兼 Clarinet

瀧本 千晶

[2020年9月1日付け入団]



はじめまして。この度B♭クラリネット兼アルトクラリネット奏者として入団致しました、瀧本千晶と申します。東京佼成ウインドオーケストラは、子供の頃からたくさんCDを聴いたりテレビで見たりしてきた、憧れの存在でした。歴史あるこの楽団の一員としてステージに立てる喜びを噛みしめ、常に最高の音楽をお届けできるよう精進して参ります。これからどうぞよろしくお願い致します！

Gold Members サポーターズクラブゴールド会員(3口以上)の皆さま

金子 毅	五十音順、敬称略で掲載させていただいております。(2020年9月30日現在)
平山 博通	望月 良貴
ピロッタ 真緒	横田 陽一

PR Supporters PRサポーターの皆さま

TKWOのチラシやポスターの設置にご協力いただいている皆さまをご紹介します。

店舗等一覧 敬称略で掲載させていただいております。(2020年9月30日現在)

アルル音楽教室	(株)池袋音楽学院
(株)コマキ楽器 ジャパンパーカッションセンター	(株)CAFUAレコード
ブレーン(株) 広島本社	吹奏楽webマガジン「Band Power」
ブレーン(株) 東京支社	吹奏楽専門ショップ「Band Power」
(株)管楽器専門店ダク	大江戸シンフォニックウインドオーケストラ
ミュージックスクール「ダ・カーポ」	ドレミファクトリー
(株)セントラル楽器	フルート専門店テオバルト
日本大学芸術学部音楽学科 江古田校舎	アトリエ・エム株式会社
管楽器雑貨専門店pitch	イシバシ楽器 横浜店
ザクラリネット ショップ	葡萄房 by THE CAMEL
新潮講座・神楽坂教室	やしろ食堂
(株)ドルチェ楽器 管楽器アヴェニュー東京	吹奏楽酒場「宝島。」
(株)永江楽器水戸	金寿司
野中貿易(株)	フローリスト花六
(株)ヤマハミュージックリテイリング 横浜店	中華大栴
宮地楽器 小金井店 ANNEX	

個人のお客様

渡邊 直子	櫻野 哲也
-------	-------

東京佼成ウインドオーケストラではPRサポーターを募集しております。

東京佼成ウインドオーケストラの活動をサポートしていただけませんか？
ポスター・チラシの掲示、チラシを設置していただける店舗・公共施設を募集しております。(個人も含む)
ご協力頂ける皆さまのご芳名は定期演奏会プログラム・公式サイトに掲載させていただきます。

PR
サポーター
とは？

TKWO オリジナルグッズ好評販売中!

Original goods

ほかにも多くの商品をご用意しております。

ご購入・詳細はこちら



60周年記念グッズ



チケットホルダー

1冊 800円



ステッカー

1枚 100円



新商品登場!

※イメージ

アクリルキーホルダー

1個 300円(全39種)

※ランダム封入、商品の交換はできません。
※個別販売はしておりません。イラストは選べません。

Tokyo Kosei Wind Orchestra



会員募集中

SUPPORTERS CLUB

東京佼成ウインドオーケストラ サポーターズクラブ

東京佼成ウインドオーケストラ(TKWO)はあなたのウインドオーケストラです!!

TKWOをもっと身近に感じて応援する仲間になりませんか?

サポーターズクラブに入会して、もっとTKWOの音楽を

より多くの皆さんに届けられるように活動を支えてください!

詳細はこちら



Tokyo Kosei Wind Orchestra

東京佼成ウインドオーケストラ

楽団創立60周年
記念ツアー

G.ホルスト

吹奏楽のための第一組曲

芳賀 傑

水面に映るグラデーシヨンの空

P.グレインジャー/F.フェネル 校訂

リンカンシャーの花束

保科 洋

吹奏楽のための交響曲第3番

[TKWO委嘱新作]

指揮

大井剛史

(正指揮者)



日程

- ▶ 11月 7日(土) 東京公演 (第151回定期演奏会) @東京芸術劇場 コンサートホール
- ▶ 11月 8日(日) 大阪公演 (第5回大阪定期演奏会) @ザ・シンフォニーホール
- ▶ 11月10日(火) 広島公演 @広島文化学園HBGホール(広島市文化交流会館)
- ▶ 11月11日(水) 福岡公演 @アクロス福岡シンフォニーホール
- ▶ 11月17日(火) 札幌公演 @札幌市教育文化会館
- ▶ 11月19日(木) 山形公演 @やまぎん県民ホール(山形県総合文化芸術館)
- ▶ 11月20日(金) 新潟公演 @りゅーとぴあ(新潟市民芸術文化会館)

※チケット情報はオフィシャルサイトをご覧ください。

U25割引!!

東京佼成ウインドオーケストラの東京定期演奏会が、

25歳以下ならどなたでも
2,000円でお聴きいただけます!

※A席・B席相当。お席はお任せいたします。 ※予定数になり次第、販売終了。
※購入を希望されるお客様はTKWOチケットサービス(TEL 0120-692-556)までお問い合わせください。

創立60周年記念!期間限定!

S60割引

60歳以上の方は、東京定期【S席】を
40%引きでお求めいただけます。

お席の場所はお任せいたします。(限定枚数販売)
お取り扱い:TKWOチケットサービス | 0120-692-556

※実施期間:2020-21シーズン(第148回~第152回定期演奏会)

放送
決定!

TOKYO FM サンデースペシャル

東京佼成ウインドオーケストラ60周年特別番組 「時代の風を奏でて」

2020年
10月4日(日)
19:00~19:55
 **80.0MHz**

司会: 長野美郷、富樫鉄火
ゲスト: 田中靖人
(東京佼成ウインドオーケストラコンサートマスター)
放送局: FM北海道、FM山形、TOKYO FM、
FM NIIGATA、FM大阪、広島FM、
FM福岡

<https://www.tkwo.jp/>



《 主催 》

佼成文化協会 東京佼成ウインドオーケストラ

《 提携 》

公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場

《 後援 》

一般社団法人全日本吹奏楽連盟

東京都吹奏楽連盟

公益社団法人日本吹奏楽指導者協会

公益財団法人日本音楽教育文化振興会

一般社団法人日本管打・吹奏楽学会

一般社団法人日本吹奏楽普及協会

株式会社日本コロムビア

株式会社テレビマンユニオン

公益財団法人としま未来文化財団